

第6回日韓教授統一思想研究会
「現代文化と統一思想」

学校性教育における純潔価値観教育の提案

文相喜 (Dr. Sanghuy Moon)

鮮文大学校純潔学部教授

東京都新宿区新宿 5-13-2 成約ビル 1F : セミナールーム
共催 : 統一思想研究院/PARP 後援 : 世界平和教授アカデミー
2010年9月4日—5日

〈要約〉

価値観は人の行動表現において重要な役割をする。価値観はその人の態度や行動で重要な要因として作用する。価値観の変化はその人の動機と抱負、認識と解釈、意味と満足、そして評価基準の変化を意味する。価値観はその共同体の生存維持あるいは発展に大きな影響を及ぼすようになる。特に純潔価値観は夫婦共同体意識形成の核心的要因だ。性は人間の生と家族関係を形成する生存の根源であるために、性から始まった家族共同体が社会共同体へ拡大して、繋がっていつている。純潔な性は家庭と社会共同体の安定と秩序を維持し、発展の根幹を成すようになる。

この論文の目的は学校性教育で純潔価値観教育を提案しようとするものだ。この論文は学校性教育の純潔価値観教育不在の限界を提示して純潔価値観教育の必要性を強調しようとする。さらに純潔価値観が人間の生にどんな役割をするかを議論して、純潔価値観の役割を実際の学校性教育にどのように適用するのかを模索することによって、学校性教育において、純潔価値観教育を必ず実施しなければならないということを提案しようとするものである。

核心キーワード：学校性教育、純潔価値観、性欲求、性行動、家族共同体

I. はじめに

価値観は人の行動表現において重要な役割をする。価値観はその人の態度や行動で重要な要因として作用するので、価値観の変化はその人の動機と抱負、認識と解釈、意味と満足、そして評価基準の変化を意味するのである。まず、価値観はその人の行為の動機と抱負を決めることによって、自身が何を望み、窮極的にどんな人生に繋がるかを選択させる。第二に、価値観は私たちの認識と解釈を大きく左右するので、ある状況を見て感じて解釈する一つの見解を形成させる。したがって、価値観は人生と世界を見る一つの目と見ることができるので、観という字が添付されているのである¹⁾。第三に、価値観は私たちの生活のどこでその意味と満足を得るかという問題と直結する。ある人は享楽から大きい満足感を得て、ある人は道徳的人生に大きな意味を置いて満足する。第四に、価値観が私たちに評価の基準を与えるので、日常生活で多様な評価をしながら選択して生きることになる。正しい、正しくない。真実だ、偽りだ。美しい、醜い。正当だ、不当だという判断で私た

1) ジョンボムモ、「価値観と教育」(ソウル：ベヨンサ、1986)、19-20 ページ。

ちはある評価基準を適用しているのだ。このような評価基準はその人の価値観に由来する。

このように価値観によって、私たちの生活の態度と行為が大きく左右される。価値観が正しく樹立されなければ人生の態度があやふやになり、生活自体の方向と目的があいまいになるほかないのである。したがって人間は正しい人生の方向と目的を持つように価値観教育が必要になるのである²⁾。

個人だけでなく学校共同体と社会共同体でも価値観の問題は重要な位置を占めるようになる。構成員が集まった家庭、学校、社会共同体には共同体意識が必要になる。構成員たちが共に共有でき、共に分かち合うことができる生活様式の要因が共同体の共同意識に貢献することになる。そのなかで、価値観は共同意識形成において不可欠な要因となる³⁾。

価値観はその共同体の生存維持あるいは発展に大きな影響を及ぼすようになる。特に純潔価値観は夫婦共同体意識形成の核心的要因である。性は人間の生と家族関係を形成する生存の根源であるからである。人類歴史は性から始まり、家族共同体を成し、学校共同体、社会共同体へ拡大し、繋がっている。純潔な性は、家庭と社会共同体の安定と秩序を維持し、発展の根幹をなすようになる⁴⁾。

この論文の目的は学校性教育で純潔価値観教育を提案しようとするものである。この論文は学校性教育の純潔価値観教育不在の限界を提示し、純潔価値観教育の必要性を強調する。さらに、純潔価値観が人間の生にどんな役割をするのかを議論し、純潔価値観の役割を実際の学校性教育にどのように適用するのかを模索することによって、学校性教育において純潔価値観教育を必ず実施しなければならないことを提案するものである。

II. 学校性教育における純潔価値観教育不在の限界

我が国の学校性教育は、1980年代から教育部が能動的な性教育を強調し始め、現在の学校性教育に至るようになり⁵⁾、性教育内容の変化があったが、純潔価値観教育の不在とそれにともなう限界を調べてみようと思う。

1. 学校性教育における純潔価値観教育の不在

現在、我が国の学校性教育は2000年に教育人的資源部が‘性教育元年の年’と定めて、2001年に発刊された初、中、高等学生を対象にした教師用性教育指針書、『共に解いていく性の話』と『セクハラ、性暴行予防プログラム』のパンフレットとCDを製作して、全国

2) 同上、21 ページ。

3) 同上、22 ページ。

4) ムン・サンヒ、「存在の普遍的法則にともなう純潔な性の具現」、「宗教教育学研究」第30巻(ソウル：韓国宗教教育学会、2009)、176 ページ。この論文において、純潔な性は宇宙の普遍的法則に従う性規範を具現する性であると議論している。

5) アンチャンソン・キムヒョンオク編訳、「学校性教育」(ソウル：教育科学社、1996)、41-43 ページ。

の初、中、高等学校、各級学校に配布した。現在、教育科学技術部は年間 10 時間以上、性教育を実施するよう計画を立てて行っている⁶⁾。

2005 年には学校性教育活性化指導指針に従って、正しい性知識、性倫理意識を備えた健康な青少年育成と学生の発達段階を考慮した性教育実施を誘導した。教育科学技術部は性売買誘惑および性暴行などの有害な外部環境から学生を保護して、両性が平等な学校文化風土造成の目的で、一学校に一人の性教育担当教師を指定するなどの努力を傾けている。教科部が 2009 年度に発刊した教師用性教育指導書を見れば、2001 年度に発刊された本の内容に比べて進展した内容は殆どなく、2001 年度には大きく三つの領域に分けていたのが、2009 年度の本では四つの領域に分けて、「幸せな家族関係」を 2001 年度の内容とは異なり、他の領域として扱っている。この指導書は現代の多様な家族形態を認める方向で指導しており、具体的な幸せな家族のモデルが提示されないでいる。さらには同性愛者などの生のスタイルに対する偏見をなくそうとする方向に進んでいる⁷⁾。

筆者は 2001 年度の性教育指針書の内容を重点的に分析した。その理由は 2001 年度の性教育指針書は教師用と学生用が併行して出版されたが、2009 年度の性指導書は教師用だけ出版されているからである。2001 年度の指針書内容は 2009 年度のそれと大きく異なるところがないので、より研究の助けになる 2001 年度の性教育指針書を選択したのである。

2001 年度の学校性教育の内容構成を見れば個人内的側面から個人間の関係の側面、そして社会の側面に拡張される点を考慮して、「身体および心理発達」、「人間関係の理解」、「性文化と性倫理」の 3 つの領域から構成されている⁸⁾。はじめに、「身体および心理発達」の領域では、妊娠と出産、男女の身体構造と変化内容を含んでおり、性心理発達領域は性心理発達段階的特性、青少年期の悩みと葛藤の内容などがある。性健康領域は性生殖器の衛生と性的病気と避妊、エイズ、性的異常行動に対する内容を含んでいる。このような内容は生物学的観点から身体発達の変化に焦点を合わせていて、社会的に多様な観点を持つ価値中立的態度を教育することによって、青少年の性行為に対して、青少年が主体的存在として自ら選択、決定して責任を負うものと教育している⁹⁾。

二番目に、「人間関係の理解」の領域では、家族関係、友人と異性関係などに対する理解、自身の意思表示と合理的な意志決定能力を育てることができる内容を含んでいる。結婚と家庭の領域では、結婚の意味と家族構成員の役割と責任に関する内容を含み、異性と愛の領域では、友情と愛、異性交際の具体的な時期、異性間の礼儀と関連した内容を含んでいる。自己決定と選択領域では、性的行動の自己の決定権、効果的な意思疎通と自己主張の

6) 教育人的資源部、「性教育プログラムの効果分析および改善法案研究」、「女性教育政策研究課題報告書 2004」(ソウル:教育人的資源部、2004)、11-14 ページ。

7) 教育科学技術部、「大切な性を正しく知ること: 中、高等学校教師用指導書」(教育科学技術部、2009)、93 ページ。

8) 教育人的資源部、「共に解いていく性の話」(ソウル:教育人的資源部、2001)、5-6 ページ。

9) 教育人的資源部、「共に解いていく性の話」(ソウル:教育人的資源部、2001)、28-36 ページ。

内容がある。

三番目に、「性文化および性倫理」の領域では性固定観念と性正体感（性のアイデンティティ）の発達理解を、社会的環境では性暴力の意味、類型、発生原因および予防策、性と大衆媒体、性商品化と青少年売春の問題を含んでいる。両性平等領域では、性差別と性役割の固定観念、男女の協力と調和を土台にした両性の平等の意味に対する内容を含んでいる。これは主に結果的、現象学的な観点から性文化と性倫理理解へ接近するもので、青少年の性意識と性態度、性行為に対する根本的な動機や原因的接近の対処方案の摸索がない。

以上のように、学校性教育の三種類の領域の中でそのどこにも純潔価値観教育内容は見出すことができないことが分かる。学校性教育において、純潔価値観教育がないことによって生じる限界が何かを議論しようと思う。

2. 純潔価値観教育不在の限界

最初に、学校性教育が身体的、心理的变化にともなう青少年の性欲求による性態度と性行為に最も大きい影響を与える純潔価値観教育を見過ごしている。生物学的で生理的な教育は重要で必要であるが、人間の生は身体と心理発達の生理的作用と変化の流れによって生活する対象ではないのである。人間の身体と心理の変化を教育すること以前に、望ましい人格の人間像を提示して、身体と心理発達の目的と方向にたいして具体的に解答を与える純潔価値観教育が成されなければならない。性ホルモンによる二次性徴の意味は何であり、どんな目的で現れるのか？ それにともなう性心理作用の性欲求の調節は可能なのか？ 性欲求調節が必要な理由は何か？ 青少年の身体発達と心理発達の意味と満足は何か？ 健康な性のためにどんな動機を与えることが必要なのか？ 健康な性の規範的評価基準は何か？ これらの質問に答えることができる純潔価値観教育が成されなければならない。

生物学的観点から身体発達と心理変化に焦点を合わせて構成されている学校性教育は、避妊と妊娠、墮胎などに対しても、価値中立的な見解、あるいは社会の多様な観点の評価基準から解釈することによって、青少年たち個々人の選択と責任の問題に転じている¹⁰⁾。その例として青少年らに対する避妊性教育は、避妊道具を使って性病と望まない妊娠を避けることができる安全な性を模索するようにする性教育は、条件付きの禁欲型の性教育である。青少年たちに“性関係をするな。しかし安全な性する方法がある”という折衝的な教えは正しい選択を教えるのではなく、矛盾した二つの論理で二種類の観点を同時に提供することによって、性行為と関する選択の意志決定とその結果の問題を青少年自らに任せてしまうという無責任な性教育になるのである。

学校性教育では性的自己決定権を強調している。すなわち青少年らの性欲求と関連した性問題、婚前性関係、妊娠、墮胎、青少年の売春、性暴力、などの性行動に対する選択と

10) キムサンウォン編著、「性教育/性相談の理論と実際」(ソウル:教育出版社、2000)、165 ページ。

意志決定権、そしてその結果に対する責任は青少年たち自身の問題なのである。したがって青少年らの性価値観が明確に樹立されなかった場合、彼らの安全な性、健やかな性が崩れていることを無為無策で眺めているのが今日の学校の性教育現場なのである。

第二に、人間関係を初めて経験する場は家庭である。人間は家庭で子供として生まれ、両親の愛を経験しながら、最も暖かい人間関係を習うことになる。人間は家庭で両親の愛、夫婦の愛、兄弟姉妹の愛、子女の愛の四大愛の領域で、上下(父母子女関係)、左右(夫婦関係)、前後(兄弟姉妹関係)の六方向の人間関係をまんべんなく経験しながら、人間関係を学ぶようになる。家庭における多様な愛の経験が、社会共同体における多様な人間関係の利他的な愛として現れることができるのである。人間の性の完成は、結婚を通じて、愛する夫婦関係を成して子供を産み、兄弟姉妹を教育する両親になる経験をしながら、家庭において可能なのである。家庭は結婚を通じた家族関係において、愛の人格完成のための訓練と教育の場なのである¹¹⁾。

学校性教育において、性の完成を成し遂げる健全な家庭のモデルを提示する教育が成されていないために、青少年たちが結婚を放棄する方向へ進むのである。青少年たちの結婚の有無は個人の選択事案として、結婚を負担と感じ、独身を選択するようになったり、結婚をしても意図的に子供のいない家族を好む傾向が増える結果となり、低出産率のような社会的、経済的問題が台頭しているのが実情である。2005年4月5日の東亜日報記事で、韓国保健社会研究院、キム・スングォン博士の研究報告書、「多様な家族の出現と社会的支援体系構築方案」によれば、子供がいないことを好む比率が1997～2005年までの12年間に5倍以上増加したことが分かった。青少年が異性交際や結婚を正しく理解するためには、健全な家庭に対する価値観を樹立する純潔価値観教育が成立しなければならない。

現在の学校性教育において、‘人間関係’の領域で扱うのは家庭での性の役割とそれに伴う尊重と責任の断片的な部分に焦点が与えられているために、性的自己決定で相手に対する尊重と責任だけあれば、性的快楽の権利を主張できる可能性が与えられるようになる。したがって結婚以後、配偶者よりさらに魅力的な相手が現れれば自身の判断基準によって結婚を破棄する場合が一度や二度ではなく、家庭破綻の離婚率が増える状況に至るようになる。性行動において、相手に対する尊重と責任の基準と範囲が何なのか、具体的評価基準が提示されない性行動の尊重と責任は、自身の判断基準が価値基準になるほかない。青少年たちの性的意志決定と結婚の有無に関する選択は自身の判断基準から決定できるのではなく、存在の普遍的法則による判断基準によって決定しなければならないと認識するように導く純潔価値観を教育しなければならない¹²⁾。

人間ならば誰でも‘当然しなければならないことと当然してはならないこと’を知らせる

11) ムンサンヒ、「両親—子女が共に成し遂げる絶対の性」(アサン:鮮文大学校、2007)、88ページ。筆者は純潔価値観による性の完成は神聖な結婚を通じて夫婦の縁を結んだ後に互いに人格的な愛と性関係を形成する時、性の完成を成すことだと説明している。

12) ムンサンヒ、前の文、175ページ、180-181ページ。

のが普遍的法則である。宇宙の普遍的法則には自然法則と価値法則があるが、これらは個人の選択の問題でなく、健康で幸せな生活を送るために当然従わなければならない法則なのである。すべての存在の有機体は自然法則により存在、作用、繁殖をしている。人間の身体は自然法則に従うが、心の作用は価値法則に従うようになっている。その価値法則が規範なのである¹³⁾。人間の純潔な性は当然従わなければならない価値法則にともなう徳目に該当するのである。

第三に、学校の性教育の性文化、性倫理の領域では、両性平等の立場に立った性の役割の理解と責任を負う性行動を扱っている。両性性の教育は、性の役割において性の固定概念と性差別に対する代案として提示される教育であるが、正しい性態度と性行動を教育するには不十分な点が多い。両性性に関して多くの心理学者たちが研究した結果では、両性性集団が異なる集団よりも自己尊重感、自我実現、成就動機、結婚満足度がさらに高いという研究結果がある反面、男性性集団のほうが創意性が高いという研究もある。また両性性と男性性集団間に自己尊重感、自我実現、自我正体感（アイデンティティ）、得点の差がないという研究と、性別にしたがって他の両性性が現れるという研究もある。このような多様な研究結果で一貫性を探するのは難しい¹⁴⁾。

両性性の限界を補完できる価値観は、やはり純潔価値観教育からその代案を探ることができる。純潔価値観教育は男性と女性の固有な特性は、男女に対して性の固定概念を持って性差別をするためのものでなく、優劣をつけるのではなく、互いに調和と協力を成し遂げるための性質として説明している。男性と女性の固有な特性は男女が互いに好むことができる性質なので、男女の固有な身体的、心理的特性を互いに尊重しなければならないということである。したがって男性と女性の特性は互いに愛を完成するための性質であるということを経験し教育しなければならないのである。

Ⅲ.学校性教育における純潔価値観教育の必要性

1.純潔の正義

純潔とは核心的意味と広義の意味で定義できる¹⁵⁾。核心的純潔の意味は、本然の人格を完成するために男女がそれぞれ精神的、肉体的に純粹できれいな状態として、唯一人の配偶者と人格的な性関係を持つことをいう。本然の人格とは、普遍的法則に従って人生を営みながら、結婚前後に淫らな欲望と考えを持たず、配偶者以外の肉体的性と愛の結合を持た

13) イサンホン、「統一思想要綱」(ソウル：ソソファ社、1994)、247-248 ページ。

14) ムンサンヒ、前の本、283 ページ。

15) ムンサンヒ、「統一思想から見た純潔理念と教育内容のための試論的研究」、「統一思想研究論叢」第10巻(鮮文大学校統一思想研究院、2002)、189-190 ページ。

ないのである。

広義の純潔の意味は、本来の人格を完成するために社会的、文化的環境の多様な価値活動領域において、人間の存在目的を成し遂げるために性規範を遵守する意識と態度を意味する。存在目的を成し遂げるということは真の愛を完成することを意味する。人間の存在目的は普遍的に東西古今を問わず誰でも持っている目的として、次の三つに要約できる。第一は人格者になることであり、第二は家庭と社会共同体において愛する人間関係を形成することであり、第三は社会共同体に発展的、肯定的に寄与することである¹⁶⁾。

純潔の核心的意味を無視する広義的純潔の意味は無意味なものであり、純潔の二つの意味が成されない人生は真の愛の関係の生がなされないのである。純潔とは、夫婦の真の愛を完成するための出発点であり、土台となる基礎徳目であるためであり、純潔徳目の具現がなければ、夫婦の真の愛の完成は不可能なためである。

2. 純潔価値観教育の必要性

純潔価値観とは、純潔の定義を土台に樹立された価値観である。純潔価値観は宇宙の普遍的法則に従う価値観として、時代、場所、思想、文化を超越して適用される価値観と言える¹⁷⁾。純潔価値観が定立された青少年たちの生は、性行動を行う以前に自身の性行為に対する動機と抱負を明確に認知することができ、自身の性行動に対する明確な解釈と性行為の結果に対する満足の有無を認識する可能性がある。また青少年の立場から性行為に対する明確な評価基準が設定されるために、青少年たちが分別のない本能的な性行動を自制できる調節能力が可能となり得る。

学校性教育は身体と心理作用の生理的、機能的な面に重点が置かれていて、性行為に対する動機と抱負、認識と解釈、意味と満足、評価基準などを伴う性行動を期待するのは難しいのが実情である。学校性教育の人間関係領域においても、家庭での性の役割とそれに伴う尊重と責任の断片的な部分に焦点が与えられた性教育では、相手に対する尊重と責任の基準と限界が何であるか評価基準が提示されないために、性的好奇心と性衝動によって、性行動を犯した後で自身の性行動の結果に対して責任的收拾をしようとするものの、困難に悩む青少年たちが増えているのが実情である¹⁸⁾。

学校性教育は青少年の性行為と関連した性問題を青少年自らに任せてしまう無責任な避妊性教育から抜け出さなければならない¹⁹⁾。青少年たちの性と関連した諸般の問題、自慰行

16) 上の文、190 ページ。

17) 脚注 16 で説明した通り宇宙の普遍的法則の六種類の法則は時代、場所、思想、宗教、文化、国を超越して適用される法則を意味し、このような普遍的法則に従う生は純潔な生を具現する生である。

18) 韓国父母教育学会、「性教育学」(ソウル：教育科学史、1998)、410-430 ページ。

19) キムジョンオク、「青年性教育」(ソウル：ヤンソウォン、2001)、220 ページ。カトリックやイスラム教では避妊や人工流産に反対する立場にあるので避妊教育は慎重でなければならないということ

為、無分別な異性交際、婚前性関係、墮胎、未婚の母、性病、青少年売春、性暴力などには、個人的、家庭的、社会的に多様で複合的な原因があるが、その中で青少年の性行動の最も根源的な問題は、青少年の生理的性ホルモン作用による本能的な性欲求によって、性の好奇心と性衝動を自ら調節できない結果、もたらされる性の問題である。性欲求は新生児の時からすでに大脳辺縁系という器官にプログラムされていたものが思春期に至って、二次性徴として現れ、本能的に作用するのである。大脳新皮質系は 140 億個の脳細胞で構成されており、教育によって知、情、意の機能の活性化を通じて本能的性欲求を調節する作用をする所である²⁰⁾。

人間の脳辺縁系は本能的な性欲求を表出する作用の器官であるが、人間の脳真皮質系の機能は後天的な教育によって、価値観変化にしたがって青少年たちの本能的性欲求をいくらかでも調節可能なのである²¹⁾。そのような観点から、避妊性教育以前に青少年たちの性欲求を調節しなければならない理由、そしてどのように治めなければならないかということを確認にすることができる純潔価値観教育が先行しなければならないのである。青少年たちの性関連の悩みを解消して多様な性問題を予防する次元だけでなく、逸脱した性行動から抜け出すことができない青少年たちを治療する方便として、新しい第二の純潔な生を送れるように導く、その理由と方法を知らせる純潔価値観教育が必要である。人間が健康であろうとするならば、自然法則に従わなければならないことを認識する青少年たちは健康であるために難しくても自然法則に従おうと努力するようになるのと同様な道理で、安全な性、健康な性を生きることによって自身の幸福を具現することができるという価値観に確信が持てるならば、すでに性行動の失敗があったとしても価値法則に従って純潔な生を送るために努力するようになるのである。青少年たちが性的意志決定をする時、自身の判断基準で選択するのではなく、普遍的法則に従う評価基準によって意志決定を下すならば、単純な性的好奇心や本能的な性衝動による一時的性行動によって引き起こされた諸般の性問題が根本的に解決可能になり得るであろう。

IV. 純潔価値観の役割

青少年の発達特徴は身体的、心理的に性ホルモン分泌の変化によって二次性徴が現れる時期である。青少年の時期はおよそ 10 才から 20 才まで、いわゆる 10 代を意味する。二次性徴を現わす性ホルモンは、人間の本能的な行動を形成するのに決定的な役割をするようになる。異性に魅力を感じる感情が増幅し、ペアになりたいという本能的心理は、性ホル

述べている。

20) イスンヨル・ペピョンジュ、「性教育下習指導案」(ソウル：ハンビット出版社、1997)、84 ページ。

21) アンチャンソン・キムヒョンオク編訳、前の本、6 ページ。

モンの影響を受けて現れる心理である²²⁾。青少年時期の性的エネルギーは内面的に非常に強く不安定な形態で経験する一方で、このような性欲求を合理的に充足させることができる能力が未発達な状態なので、不安感や羞恥心を経験することになる。青少年時期の情緒は、感情の起伏を非常に強く経験するという報告がある²³⁾。

青少年期の思考形態の特徴は、試行錯誤的に行動する前に抽象的な基準でいくつかの関連変因を抽出して、これらの間の仮説を設定し、結論を導き出す、仮説演繹的思考が可能な時期である。仮説演繹的思考を通じて、青少年は問題状況と関連した変因たちを結びつけて考えることができ、それと関連した他の具体的な事実も演繹して出すことができ、両立できない事実を弁別できる能力がある時期である²⁴⁾。

青少年時期のこのような演繹的思考の能力は社会、宗教、哲学、政治、性行動など、多様な分野に対する状況と関連した問題解決能力が可能な時期である。したがってこの時期に宇宙の普遍的法則に従う純潔価値観が定立されるならば、性と関連した問題解決のための思考能力の培養が可能である。そのような意味で純潔価値観の役割に対して考察することにする。純潔価値観の役割は非常に多様であるが、この論文では五つに要約して議論することにする。

1. 性行動の客観的評価基準提示

純潔価値観の最初の役割は、青少年たちが性行動をする前に自身の性行動に対する客観的評価基準によって、自身の性行動が正しいのか正しくないのか判断できる、性行動の時期と相手に対する明確な判断基準を提示することである。純潔価値観は宇宙の普遍的法則に従う時に、純潔な生を送るようになるという意味を付与するために、普遍的法則において提示される「成長期間の法則」と「相対性の法則」が性行動の判断基準になるのである²⁵⁾。

「成長期間の法則」とは、普遍的法則による純潔な生は成長期間の過程には性行動が許諾されないという法則をいう。人間の発達過程の嬰兒期、幼児期、児童期、青少年期を経て、夫婦としての公式的な縁で公表する結婚式を経てこそはじめて性行為や性関係が許されるのである。完全な性の機能を発揮するために、身体的構造と生理的機能、そして心理的、情緒的、社会的に成長して成熟するためには一定期間を経なければならないのである。人間の愛と性が成熟する時まで待たなければならないということである。

青少年性教育者のエルレンドスは、彼の著書で10代の青少年たちがガールフレンドに望むことは自身の性的欲望を充足させようとする利己心の発露が強いと言う。結婚する時まで待たない性関係は、当事者たちの自制心と良識の欠如を見せる以外に何の意味もないと

22) イシバク他、「性教育理論と実際」(ソウル：ソウル大学校出版部、2004)、7ページ。

23) 上の本、8ページ。

24) 上の本、11ページ。

25) ムンサンヒ、「存在の普遍的法則に従った純潔な性の具現」、181-184ページ。

説明している²⁶⁾。宇宙の普遍的法則の中の「成長期間の法則」は、性と愛の完成に向かって
いる青少年たちに、待つことの基準を知らせながら、幸せな生の道に案内し、完成のため
に耐えて待つ生の理由と方法を知らせているのである。

「相対性の法則」とは、人間の性的対象は結婚した配偶者以外のどんな他の異性との性
行動を許さない法則である。動物は発情期の時、繁殖のために一对多数の相対関係が可能
であるが、人間の場合は一人の男性と一人の女性との関係だけが許される。歴史的に一夫
多妻制や一妻多夫制の文化が形成されたこつもあるが、それは相対性の法則から逸脱した
文化であり、正しい一夫一婦制の文化に正されなければならない課題がある。

人間は動物と異なり、性的相対的關係は唯一の配偶者との関係だけを許すようになってい
るのは‘愛の属性’のためである。‘愛の属性’は‘絶対、唯一、不変、永遠’な性質を持
っている。人間は愛する人に会った時、相手を絶対に失いたくないという愛の属性がある。
愛する男女関係において、愛する人は必ずその人でなければならず、ただ 1 パーセントも
他の異性が介入するのを許さない。夫婦の愛の関係は、絶対的であり、配偶者だけを愛す
ることを期待しており、互いに絶対的、唯一で不変な愛、永遠の愛を望んである。‘愛の属
性’を成す夫婦関係において、信頼感が形成され、情緒的、心理的に安定する。結婚した
夫婦関係において、婚外情事があるという事実を知ることになるその瞬間から夫婦関係の
信頼感が崩れることになり、不信と対立、そして葛藤関係が始まるのである。‘愛の属性’
から逸脱した性行動は相手に深い傷を与えるために、傷を与える人と傷を受ける人ともに
苦痛が伴うようになっている。

青少年たちが、結婚後に配偶者に婚前の性関係を隠そうとするのは‘愛の属性’ためであ
る。

2.性欲求の調節能力培養

純潔価値観の第二の役割は青少年の性欲求を調節できる能力を育てることである。人間
は本能的な性の欲求を解消しようとするより、さらに大きい自身の存在目的を成そうとす
る自我成就欲求がある。青少年期の特性の中の一つは、性ホルモンの生理的作用による一
時的な性好奇心や性衝動を解消しようとする強い性欲求を噴出させようとする。しかし性
の欲求よりさらに大きな欲求として、自我正体感（アイデンティティ）を持ちながら、
自我成就欲求を達成しようとする熱情を持つという特徴がある。従って自我成就欲求を達
成するために夜を明かしながら勉強に没頭し、自身が正しいと考えることや社会運動に全
身全力を投球する青少年たちがいるのである。青少年期は自身が成そうとする明らかな生
の理想と目的を悟るようになれば、その理想と目的を成し遂げるために汗を流しながら、

26) アンド レンドス、オギョンス訳、「10 代の愛と純潔の対話」（ソウル:家庭文庫社、1981）、52-53 ペー
ジ。

努力することができる熱情を投じる時期なのである²⁷⁾。

人間の脳の大脳辺縁系は本能的欲求を噴出させる作用をするが、大脳新皮質系の機能は後天的教育を通じて、価値観が定立されればその価値観により知、情、意の作用をするようになり、自我成就のための作用をすることになる²⁸⁾。したがって性価値観によって性規範的な、知的な判断と感性、そして意志力による決心でもって自身の性行動を統制することができ、自身の自我成就のために、その目的を成し遂げることに全力投球することができるようになるのである。

純潔価値観教育は人間の普遍的な存在目的を成し遂げる具体的な生の目的と方向を導く。存在目的はすでに純潔の意味で述べたように、第一に、人格者になること、第二に家庭と社会共同体で愛する人間関係を持つこと、第三に社会共同体に寄与することである。このような三つの存在目的は東西古今、学校教育、宗教、心理、哲学などの教えの核心目標になっている。

孔子の教育指針書の冒頭には次のような記録を見ることができる²⁹⁾。①徳を積む人格になれ。②すべての人を愛しなさい。③世の中に最も高い善として残れ。そのように教育目標を設定している。教育学者のコビー(Staphan Covey)は、このような普遍的な教育目的を人間の生の根本的目標としている³⁰⁾。“To live, to love, to learn to leave a legacy”の“to live”と“to learn”は人間個体の成熟のための生の目標であり、“to love”は家庭と社会で愛する人間関係のための目標であり、“to leave legacy”は社会に有益なことを寄与しなさいという意味である。心理学的研究の人格教育の分野においても、このような生の三つの目的を支持している。コーン(Conne)とチェンバレン(Chamberlain)は、心理学者たちの最も共通して意味ある生のための教育目的を次のように整理し、紹介している³¹⁾。①個人の人性発達、②人々と望ましい調和がとれた関係性、③自然と関連した創造性実現。東洋の伝統でもこのような特性が明らかである。①為己之学：自分自ら人格を磨くようにする教育、②為人之学：家庭や社会で他人を愛して、尊敬し、配慮することを教える教育、③為序之学：社会的に約束された秩序と規則を守りながら、社会繁栄のための教育である³²⁾。

青少年たちがこのような人間の普遍的な存在目的があるということを知り、それがとりもなおさず自身のアイデンティティ形成と自我成就を成す道だということをはっきりと悟るならば、一時的な性衝動によって、自身のアイデンティティを喪失して、自我成就

27) キムジョンオク、前の本、101-110 ページ。

28) アンチャンソン・キムヒョンオク編訳、前の本、6-7 ページ。

29) International Educational Foundation. *Educating for Lifes True Purpose: Fostering Character, Love and Service*. (New York: IEU, 2000), p.122.

30) Covey, Stephen. Quoted in *First Things First*. (New York: Simon & Schuster, 1994), p.67.

31) Connor, Kay and Chamberlain, Kerry. “Dimensions of Life Meaning: A Qualitative Investigation at Mid-Life.” *British Journal of Psychology* (87/3. Aug. 1996). pp.461-477.

32) ムンサンヒ、「心情と規範中心の大学教育：愛天、愛人、愛国具現のための研究」、「漢学者ファガブ記念文集」第2巻(ソウル：聖火社、2004)、289-291 ページ。

に妨げになる無謀な性行動を調節することができる能力を培養するであろう。

3.相手の性に対する尊重と責任の鼓吹

相手の性に対して尊重して責任を負うという意味で必ず考察しなければならないのは、相手を尊重して責任ある性行動をしなければならない理由を説明することである。そして相手の性を尊重し責任を負う基準が何であり、範囲がどこまでかを明らかにしなければ、学校性教育で行われている尊重と責任に対する教育内容と変わらないであろう。

純潔価値観は人間が唯一無二の存在で、小宇宙的価値を持っているということを認識する価値観である。人間は誰でも歴史を通じて、東西古今を問わず、唯一無二の存在である。人間は誰でも過去、現在、未来を通じて、自身と同じ存在はないのである。人間はそれぞれ顔と体の外形が異なり、性格が異なり、創造能力が異なる。したがって‘私’という存在はこの世で、そして歴史的に、ただひとりしか存在しないのである。どれくらい貴重な存在であろうか？ 人間の価値は小宇宙的存在である³³⁾。人間一人一人は宇宙を縮小した縮小体であり、宇宙を代表する存在なのである。

青少年が自身の価値が小宇宙的存在で、唯一の存在ということを悟るならば、自身を含めて、すべての人間をむやみに無視することはできず、尊重しなければならないという理由を知るようになるのである。自身が唯一無二で、宇宙的価値を持った存在であるように、相手も唯一無二で、宇宙的価値を持った存在であるので、簡単に自身を卑下してはならず、自身のからだをむやみに扱ってはならないという事実を悟ることになるのである。したがって相手に怪我をさせる性行動を簡単に衝動的にできないのである。自身を含めたすべての人間たちを尊重しなければならない理由が明らかであるために、青少年たちは自身の性行動と他人に向けた性行動に対して責任を負わなければならないのである。

人間の性行動と関連して、相手に対する尊重と責任の基準と範囲を明確にする必要がある。人間の性行動と関連した相手に対する尊重と責任の基準と範囲は、結婚する時までは純潔な生を生きていけるように肉体的性関係をしないで保護して守ることである。結婚という意味は男女が互いに性関係を結んでもかまわないという、道徳的、法的に公式的な許容となる儀式であるために、婚前性関係は許されないのである。

純潔価値観は婚前、婚後にただ配偶者とだけの人格的な性関係を持つという価値観なので、結婚前や後で配偶者以外のいかなる相手とも性と愛を分かち合ってはならず、心と身体を貞潔に守らなければならないのである。純潔な人生は夫婦の信頼関係を形成する土台なので、このような基盤の上で夫婦愛が成熟し、家族関係が安定して秩序を成すなかで、平和で幸せな家庭を築くことができるのである。

4.両性の平等な純潔性態度の伸張

33)李相軒、「統一思想要綱」(ソウル：聖火社、1994)、67 ページ。

純潔価値観は、純潔の定義で説明したように、男女が結婚後に互いに配偶者だけの性関係を許諾する意味なので、男女が平等に純潔な生活を送ることを強調する。純潔価値観により、学校性教育において、性の役割と性の固定概念の代案として提示される両性性概念の導入は必要なくなる。男性と女性の固有な特性は、男女に対して性固定概念を持って、性差別をするためのものではなく、優劣をつけるのではなく、互いに調和と協力を成すための性質として説明しているためである。男女の固有な特性は、男女が互いに好む性質なので、男女の異なる身体的、心理的特性を互いに尊重しなければならないのである。

両性の平等な純潔な生は、男女の性差別をなくすものである。男女の身体的、心理的に異なる特性は、互いに好み、必要とする条件であるために、男女の性を差別するのは無意味なのである。むしろ男女の固有な特性は男女関係を調和と和合の関係を成す理想的な条件になるのである。

女性は男性に比べて、骨組みが細くて筋肉も脂肪質なので、先天的に、男に比べて大きな力を使えない。また子宮の発達により横経膜が固まり、腹式呼吸の代わりに胸式呼吸をするようになり、肺活量も男に比べて少ないのが事実である。反面、女は皮下脂肪層と乳房、おしり等に脂肪質が多く、皮膚が軟らかくて弾力があって、お尻が大きい。このような特性により、脂肪を徐々に分解させて、エネルギーを供給しているので、繊細で力の足りない仕事を男性より長い間、座りながら仕事をすることができるという長所がある。男性に比べて、女性は忍耐力が強く、子供を養育するのに有利である。ホルモンの場合、男性ホルモンのテストステロンと女性ホルモンのエストロゲンは男女ともに分泌されているが、男性ホルモンであるテストステロンは男性の場合、女性より十倍多く、女性ホルモンのエストロゲンは女性の場合、男性より三倍多く分泌される。このように男性と女性の生理的作用と構造は明確に差があるが、このような差は男性と女性の心理的な差も可能にするのである³⁴⁾。

男性と女性の特性がそれぞれ異なるために、男女の関係は比較の関係ではなく、愛を中心に互いに協力的で相互依存的に均衡、調和、統一を成すことができる関係である。白と黒は互いに異なるが、二種類の色が調和を成して、文字を現わすことができるのと同じ道理である。万一、白が黒になりたくて白くも黒くもない灰色になり、黒が白になりたくて浅黒い灰色になるならば、似かよった二つの灰色の色がどのように調和を成して、文字を現わすことができるだろうか？ 存在世界は陰陽の調和の中でそれぞれ異なるその特性のために美しい世界を形成するようになるのである。

5.モデル的家族関係形成の土台

人間が生まれて、人間関係を初めて経験する場は家庭である。純潔価値観は家族関係の

34) ムンサンヒ、「両親－子女共に成す絶対性」、286 ページ。

重要さとモデル的家庭の基準を提示する価値観である。家族は家族構成員がそれぞれ個性真理体として独特性を持っているのはもちろんであるが、家族間の連体的関係を持つという独特性を持っている³⁵⁾。家族の役割の定義は相対の存在にかかっている。誰も子女なくして父母になれず、妻なくして夫になれず、姉、兄なくして弟（妹）になることはできない。父母とは、子供を先有条件として存在することができ、夫は妻を先有条件に、妻は夫を先有条件に、子供は両親を先有条件として存在するためである。

家庭において、それぞれ父母、夫、妻、子供の定められた位置にある人々がどのように行動するかは、家族構成員の価値観による持続的な行動、反応、認識、解釈の純粋な結果である。家族の一員の行動は他の家族の過去と現在の行動と関連がある³⁶⁾。すなわち夫に問題が生ずれば、妻や子供も影響を受けることになる。夫が貞節を守りながら、妻を愛すれば、妻の夫に対する信頼感が形成され、安定感と喜びを経験するようになる。子女たちも、父母の美しい関係を見ながら、共にその喜びを経験するようになる。しかし夫婦のどちらかが浮気をすれば、その瞬間から夫婦関係の信頼感形成は破られることになり、葛藤と混乱が始まり、家族関係の安定と秩序が崩れることになる。夫婦関係が難しくなれば、家族がみな困難を経験することになるのである。

モデル的家庭の基準は、純潔価値観により純潔な生活を送る四大愛圏が成される家族関係をいう。家庭には父母の愛圏、夫婦の愛圏、兄弟姉妹の愛圏、子女の愛圏があるが、父母は子女に下向性の愛を行い、子女は父母に上向性の愛を行い、夫婦関係と兄弟姉妹関係は横的な愛を行うのである。このような四種類愛圏において、上下(父母と子女の関係)、左右(夫婦の関係)、前後(兄弟姉妹の関係)の六方向の関係を体験することができる³⁷⁾。健康なモデル的家庭において六方向の人間関係を体験した人は、家族共同体が社会共同体に拡大するように、社会で多様な方向の人間関係を健全に持つことができる可能性が大きいのである。家族関係の中で最も中心で代表的な愛は夫婦関係である。夫婦愛の信頼感と厚い愛の関係になることができる最も重要な要素は純潔な生である。純潔な生を土台に真の夫婦愛が成熟されるからである。夫婦の純潔な生を土台に愛の関係が成り立つ時、その父母の愛の影響が子供に関心と愛を及ぼすようになるのである。

家族関係の四大愛圏において、私たちが必ず知って実践しなければならない二つに区分される愛の圏がある。第一は配偶者以外の他の人と絶対に分けてはいけぬ愛の圏がある。それは夫婦関係の愛であり、夫婦以外の残りの家族関係においても、家族以外の人間関係においても、1パーセントも、分かち合えない愛である。夫婦の愛圏だけで性関係が許されるからである。他の家族関係、すなわち子女の愛圏、兄弟姉妹の愛圏、そして父母の愛圏では多くの人を自由に愛するほど愛の領域を拡大できる。言い換えれば、父母の愛、兄弟

35) ウェズリー・バオ他、「新しく見る家族関係学」(ソウル：ハウ出版社、1999)、39ページ。

36) ユンジュ他、「現代結婚と家族」(ソウル：シンクァン出版社、2002)、342ページ。

37) 李相軒、前の本、189ページ。統一思想では人間は家族関係の六方向の存在格位があり、その格位によって義務と権利が異なると説明する。

姉妹の愛、子女の愛は、拡大すれば博愛主義の愛となる。社会学者などはこのような愛を利他主義と言う。他人の福祉を増進させるための非利己的な行動と他人に対する私心なき関心を示すのである。青少年たちが純潔な生を土台に四大愛圏を完成させる家族関係モデルを理解して、人間存在の目的を成し遂げることが、生の意味を与え、最も大きい満足感を与えることができるということを認識する教育が必要なのである。

上述した五つの純潔価値観の役割に対して、青少年たちが学校性教育で教育を受けるようになるならば、現在の学校性教育の限界を克服できるであろう。青少年が自身の唯一無二な価値を悟り、自我成就のために、普遍的存在目的を成すために、純粋な熱情を集中するようになる時、青少年たちの性の問題を根本的に終息させることが可能なのである。

V. 純潔価値観の適用

1. 学校性教育が青少年たちの歪曲された性意識、性態度の改革を主導する

青少年たちのわい曲された性行動現象にたいして、その治療方案が要求される。青少年たちのわい曲された性行動が端的に表出された事件は2008年度4月に発生した大邱(テグ)小学校の集団性暴行事態を挙げることができる。大邱(テグ)小学校校内の集団性暴行事態はインターネット、ケーブルTVなどのわいせつ物に接した男子学生らが淫乱行為を模倣して、同性の後輩に性的暴行をしたのがその始まりだった。被害を受けた、男子学生たちが加害者らに加担して、同じ学校の女子学生を性暴行する事件につながった。学校中で子供たちが性暴行加害者と被害者で絡み合うという初めての事態になったのだ。

より一層深刻な問題は、性暴行の加害者立場にある学生たちが、自分たちがどれくらい大きな犯罪を犯しているのかすら、分からないということである。性暴行対策委員、大邱(テグ)女性会事務局長は、このような事態が広がった時、わが教育界は子供たちを治療して教育する力量が不足していたことが大きい問題であると指摘した。

2009年、産婦人科医師会は1年に4000人余りに達する未婚の母が発生する中で、これらの大部分が十代であると報告し、青少年たちが性に対する正しい価値観と異性観を定立することは、家庭生活と社会生活にも大きい影響を与えるので、家庭と学校、社会が十代の性教育にもう少し関心を持つべきだと促した³⁸⁾。

青少年たちの無分別な性行動は、明確な性価値観が定立されなかった状態において、インターネットのポルノ動画とチャットを通じて、性好奇心と性衝動を統制できず、直接実行したい衝動に捕われるようになったからである。保健福祉家族部児童青少年政策室が全国の中高等学校在学学生1万3721人を対象に調査した「2007青少年有害環境接触総合実態

38) イギョンデク、「墮胎に対する韓国教会の立場」、「キリスト教哲学研究」8(ペクソク大学校キリスト教哲学研究所、2007)、70ページ。

調査」によれば、青少年の最初の性経験および性接触時期が小学生の低学年と低くなっていることが明らかになった。また青少年が成人刊行物と映像物、淫乱サイトなど有害メディアに初めて接する時期は中学校 1 学年が最も高く、小学校 4、5、6 年がそれに続く。サイバーポルノは青少年たちをますます性の奴隷に転落させている。

学校性教育は、青少年たちが性の奴隷に転落している実情を見ているだけだろうか？ 危機に瀕した青少年たちの性意識、性態度を改革するために、学校性教育が全面的に出なければならない。インターネットのポルノ動画が、ネチズン (netizen ; network + citizen) らに刺激を与えて、金もうけのために俳優たちの演技で作られた偽りの実態を暴露する教育とともに、純潔価値観教育が実施されなければならない。青少年たちが純潔価値観を確立して、自分たちの逸脱した性行動がどんな深刻な問題なのか、悟るように導くべきで、未来指向的の抱負を持つように、動機を付与することが可能な価値観教育を実施しなければならない。青少年たちが生の新しい意味を取り戻して、生の満足を感じることができ、尊重と責任の基準を明確に認識できるように、学校性教育は純潔価値観教育でもって、青少年たちのわい曲された性意識と性態度を改革するのに先頭に立たなければならないであろう。

2. 学校性教育において純潔価値観教育を週の正規授業時間に実施する

学校性教育は、純潔価値観教育のために中長期的な対策を推進しなければならない。その対策として、教科課程の改編を通じて、純潔価値観教育を正規教科課程に入れなければならない。現在、我が国は教育庁で年間 10 時間内外の性教育を実施するように推奨しているが、特別活動や代替学習としておこなわれるのが日常化されている。体系的で持続的な教育のために純潔価値観教育を正規教科目に設定しなければならない。

学校性教育が正規教科目になろうとすれば、最低、週に 1 時間の正規教科目に編成するためには純潔価値観教育が可能な専門教師養成が必要である。教育大学院、教育大学および一般大学の教職過程に純潔価値観教育専攻過程を設置して、一般教師が履修するようにして、純潔価値観教師の資格証明を受けられるようにしなければならない。学校に配置されている養護教師や保健看護師たちが、教員研修院を通じて、純潔価値観教師資格研修課程に参加して、資格証明を授与されるようにすることが望ましい。教育学で言うように、教育の質は教師の質を凌駕することはできないので、純潔価値観教育の専門家養成は青少年たちのアイデンティティを樹立して自我成就をするように助けるための最大のカギであると言える。

多くの教師たちは、多様な価値観によって、現在の学校性教育にたいして純潔価値観教育の切迫性を認識できずにいるだけでなく、自分たちも純潔価値観に対し無知であるために、純潔価値観教育にたいして冷淡であったり、非協力的な傾向が強いといえる。したがって全国のすべての教員研修機関の研修プログラムに、学校性教育の純潔価値観教育を必

須にして、純潔価値観教育のための共同努力を促さなければならない。特に学校長らの純潔価値観教育への意志は、学校性教育における純潔価値観教育の活性化のために非常に重要な要因であるので、学校校長らの純潔価値観教育が先行されなければならないであろう。

3.学校性教育における純潔価値観教材と教授の学習資料開発、普及

学校性教育において、純潔価値観教育のために純潔価値観教育教材と、教授—学習媒体の開発が緊急である。教育人的資源部において、2001年度に教師たちのための性教育指針書を普及して以来、今まで新しく開発された学生用教材がないということは、学校性教育が足踏み状態であるということを示している。教師たちのための教材だけでなく、学生たちが使用できる教材も開発しなければならない。重要なのは、いくら良い教材があっても教育する専門教師がいない状況では、良い教育が成り立たないということである。

教材は青少年たちの発達過程の高さに合った純潔価値観教育内容を構成することは、実質的教育効果を高めるのに非常に重要な要素である。最近の青少年たちは、個人差はあるが、二次性徴が現れる性ホルモン症状が前倒しになっているので、小学校4学年から身体的変化に対する具体的な教育が必要である。先に述べたように、学生たちはすでに小学校5、6学年からサイバーポルノ、飲酒、喫煙、性関係、妊娠、墮胎、性病、性暴行などに赤裸々にさらされているので、純潔価値観教育では、これらの事実をみな持ち出して、性関連の問題を具体的に分析して、何が問題なのかその代案を提示しなければならない。

純潔価値観教材で必ず扱われなければならない純潔価値観教育内容は次のようである。初めに、「身体と心理発達」の領域では、望ましい人格の人間像を提示して、身体と心理発達の目的と方向を具体的に説明しなければならない。純潔価値観の役割として、宇宙の普遍的法則である「成長の法則」、「相対性の法則」、「愛の属性」は、婚前、婚後に純潔な生を送らなければならない正当性、必然性を認識するように導くものである。‘大脳辺縁系と大脳真皮質系の作用’に対する内容と、‘人間の普遍的な存在目的’：①人格者になること、②家庭と社会共同体で愛する人間関係を形成すること、③社会に寄与することは、性欲求を統制しなければならない理由と性欲求の調節の可能性の認識のためのものであり、二次性徴の身体的、心理的目的が何なのかを理解せしめるものである。さらに、自己アイデンティティと健康な性のための動機の付与と、性規範的評価基準を理解させ、望ましい人格の人間像の基準を理解させる教育内容である。

第二に、「人間関係」の領域では、健康な家庭のモデルを教育しなければならない。健康な家庭のモデルは、父母の愛、夫婦の愛、兄弟姉妹の愛、子女の愛の四種類の愛の領域をみな経験しながら、上下(父母と子女の関係)、左右(夫と妻の関係)、前後(兄弟姉妹の関係)の六方向の人間関係を体験する場となることのできる家庭を意味する。家庭には多様な方向の愛の関係があるが、夫婦の愛は唯一、性関係が許された関係なので互いに純潔な人生を要請することになる。夫婦の愛と性は配偶者以外のどの相手とも許されない関係である

が、他の愛は利他的な愛として、多くの人を愛するほど良い愛の関係であることを教育しなければならない。すでに議論したとおり、健康な家庭で多様な人間関係を経験する時、社会において、多様な人間関係を円滑に成す人間関係の形成が可能であるということはいままでの間もない。

人間関係から除いておけない教育内容は、性行動の尊重と責任の基準と範囲である。純潔価値観の役割で説明したように、人間は誰でも唯一無二な存在、小宇宙的価値を持つ存在なので、自身の身体を性的に勝手に扱ってはいけなくてだけでなく、相手に対する性行動においても尊重し責任を負う態度を持つように教育しなければならない。相手に対する性的尊重と責任の基準とは、結婚する時まで、性を保護し、守って、純潔な生を送るように導くことである。そのことを必ず教育しなければならない。

第三の「性文化と性倫理」の領域では、既存の学校性教育において、両性の平等な性役割教育として両性性教育（男女合同で行う性教育）を主張するが、多様な両性性教育の研究結果に一貫性がないだけでなく、男女の固有な特性を無視する教育であるから、そのような両性性教育を止めなければならないであろう。純潔価値観にとまなう男女の純潔な生は、自動的に男女平等な人生につながるものである。男女の固有な身体的、心理的特性は、男女の関係を互いに比較して差別しようとするのではなく、愛で互いに必要とする関係であり、相互依存的に協力する均衡、調和、統一を成す男女関係として教育しなければならないということである。

VI. 結論

価値観が人間行動の変化をあたえる最も重要な要因として作用するので、学校性教育で見過ごしている純潔価値観教育の重要性とその役割、そして学校性教育でどのように適用するのかを議論した。青少年たちの多様な性問題を解決するための方便として、今日までの学校と社会制度的努力の接近法は、性行動の結果にたいして、それに準ずる罰を与えたり、逸脱した性行為を監視する方法で接近したために、青少年たちの性問題と性犯罪は日に日に増大するのが実情であることを否定できない。

純潔価値観教育は、人間の性行動の動機と目的、認識と解釈、意味と満足、そして評価基準を明確にする価値観教育であることを議論した。青少年の性問題を減らすだけでなく、根本的に解決できる方案は、学校で純潔価値観専門教師たちによって、各種学校の初、中、高等教科書に正規の教科として、最低、週 1 時間の純潔価値観教育が実施されるようになれば、青少年たちの性価値観の変化をもたらすようになり、わい曲された性意識と性態度が改革され、十代未婚の母、墮胎、性暴行などの問題が解決可能となるであろう。青少年たちは、成し遂げたい夢と理想、そして抱負が明確に与えられれば、性の欲求を十分に抑制して、自身の夢をかなえるために熱情を注ぐことができる無限の可能性を持った

存在である。すなわち青少年たちの未来は全面的に教育の問題である。学校性教育は青少年たちの誤った性意識を改革する教育に専念しなければならない。学校性教育は、わい曲されたサイバーポルノの性情報による青少年たちの荒廃化を青少年自分たちの問題であるとして、価値中立的性教育を行いながら、これ以上手をこまねいて見過ごしてはならない。青少年性行動は危機状況にあるという点を忘れてはいけない。

参考文献

- 教育科学技術部、『大切な性を正しく知ること：中、高等学校教師用指導書』、教育科学技術部、2009。
- 教育人的資源部、「性教育プログラムの効果分析および改善法案研究」、『女性教育政策研究課題報告書 2004』、ソウル：教育人的資源部、2004。
- _____、『共に解いていく性の話』、ソウル：教育人的資源部、2001。
- キムサンウォン編著、『性教育／性相談の理論と実際』、ソウル：教育出版社、2000。
- キムジョンオク、『青年性教育』、ソウル：ヤン書院、2001。
- ムンサンヒ、『父母—子女共に成し遂げる絶対性』、忠南（チュンナム）：鮮文（ソンムン）大学校、2007。
- _____、「心情と規範中心の大学教育：愛天、愛人、愛国具現のための研究」、『漢学者ファガブ記念文集』第2巻、ソウル：ソンファ社、2004。
- _____、「存在の普遍的法則にともなう純潔な性の具現」、『宗教教育学研究第30巻』、ソウル：韓国宗教教育学会、2009。
- _____、「統一思想から見た純潔理念と教育内容のための試論的研究」、『統一思想研究論叢』、鮮文（ソンムン）大学校統一思想研究員、2002。
- アンチャンソン、キムヒョンオク編訳、『学校性教育』、ソウル：教育科学史、1996。
- ユヨンジュ他、『現代の結婚と家族』、ソウル：シンクァン出版社、2002。
- アン レンドス、オギョンス訳、『10代の愛と純潔の対話』ソウル：家庭文庫社、1981。
- ウェズリーバオ他、『新しく見る家族関係学』、ソウル：ハウ出版社、1999。
- イギョングク、「墮胎に対する韓国教会の立場」、『キリスト教哲学研究』8、ペクソク大学校キリスト教哲学研究所、2007。
- 李相軒、『統一思想要綱』、ソウル：ソンファ社、1994。
- イスンヨル・ペビョンジュ、『性教育下習指導案』、ソウル：ハンビット出版社、1997。
- イシベク他、『性教育理論と実際』、ソウル：ソウル大学校出版部、2004。
- チョンボムモ、『価値観と教育』、ソウル：ベヨン社、1986。
- 韓国父母教育学会、『性教育学』、ソウル：教育科学社、1998。
- Connor, Kay and Chamberlain, Kerry. “Dimensions of Life Meaning: A Qualitative Investigation at Mid-Life.” *British Journal of Psychology* 87/3. Aug. 1996.
- Covey, Stephen. *Quoted in First Things First*. New York: Simon & Schuster. 1994.
- International Educational Foundation. *Educating for Lifes True Purpose: Fostering Character, Love and Service*. New York: IEU, 2000.

Abstract**A Suggestion to Educate Students in the Value System of Pure Love during the Sexuality Education of the Schools****Moon, Sanghuy**

Sun Moon University

A value system is very important for one's behavior. A change of one's value system means the change of one's motivations and aspirations, perceptions and interpretations, meanings and satisfaction, and the reevaluation of one's criterion about existence and man. A value system acts as the primary factor in one's attitudes and behaviors. One's value system influences one's existence and the development of the community. Especially, the value system of pure love is a core factor for the formation of a sense of what husbands and wives are. Since human sexuality is the root of human existence for the formation of the human community, the family community extends and continues into the social community. The human sexuality of pure love maintains public safety and order in the family and society.

The purpose of this paper is to suggest the inclusion of the education of the value system of pure love in the sexuality education of the schools. This thesis presents the limitations of the absence of the education of the value system of pure love in the sexual education of the schools, and it emphasizes the significance of educating students in the value system of pure love. Moreover, this paper suggests educating students in the value system of pure love in the sexual education of the schools. This thesis discusses what kinds of roles in human life the value system of pure love has, and it explores how to apply it to human life and to the sexual education of the schools.

Key words: *Sexuality Education of the School, Value System of Pure Love, Sexual*